

緊急地震速報の認知度に関するアンケート調査（第 2 回）の結果が出ました

気象庁は 9 月上旬に緊急地震速報に関する第 2 回アンケート調査を実施しました。その結果、名前を知っている人は 61%（前回 35%）、概ね聞いたことがある人を合すると 93%（前回 84%）でした。一方、内容を正しく理解している人はすべての回答者のうち、72% でした。

認知度は前回より高くなっていますが、気象庁ではこの結果を踏まえ、緊急地震速報の特徴、限界及び利用の心得等について、より一層の周知・広報活動に努めます。

1. アンケート概要

緊急地震速報の一般向け提供に備え、2 回目の緊急地震速報の認知度調査を実施。

調査実施期間：平成 19 年 9 月 4 日（火）～11 日（火）の 8 日間

調査方法：インターネット調査（回収数設定型）

調査対象：全国の 20 歳 - 69 歳男女（地域別の人口構成比率で約 2,000 人）

なお、前回（第 1 回）の調査は、平成 19 年 5 月 25 日（金）～30 日（水）の 6 日間に実施。

2. 調査結果概要（詳細は別紙のとおり）

(1) 認知度

名称について

「緊急地震速報」という「名前を知っている」と回答した人に、「正確な名前は覚えていないが聞いたことがある」と回答した人を合わせると 93%（前回 84%）。

内容について

適切な回答である「地震の初期微動を検知し、大きな揺れが来ることを直前に知らせる情報」を選択した人は全回答者の 47%。「地震の発生を予知して知らせる情報」を選択した人のうち、意味を正しく理解していると思われる「地震が来る直前（数秒～数十秒）の情報」を選択した人を合わせると、全ての回答者のうちの 72%。

開始時期について

緊急地震速報の開始時期を正確に知っている人は、45%（前回 8%）、36%（前回 68%）の人は知らないと回答。

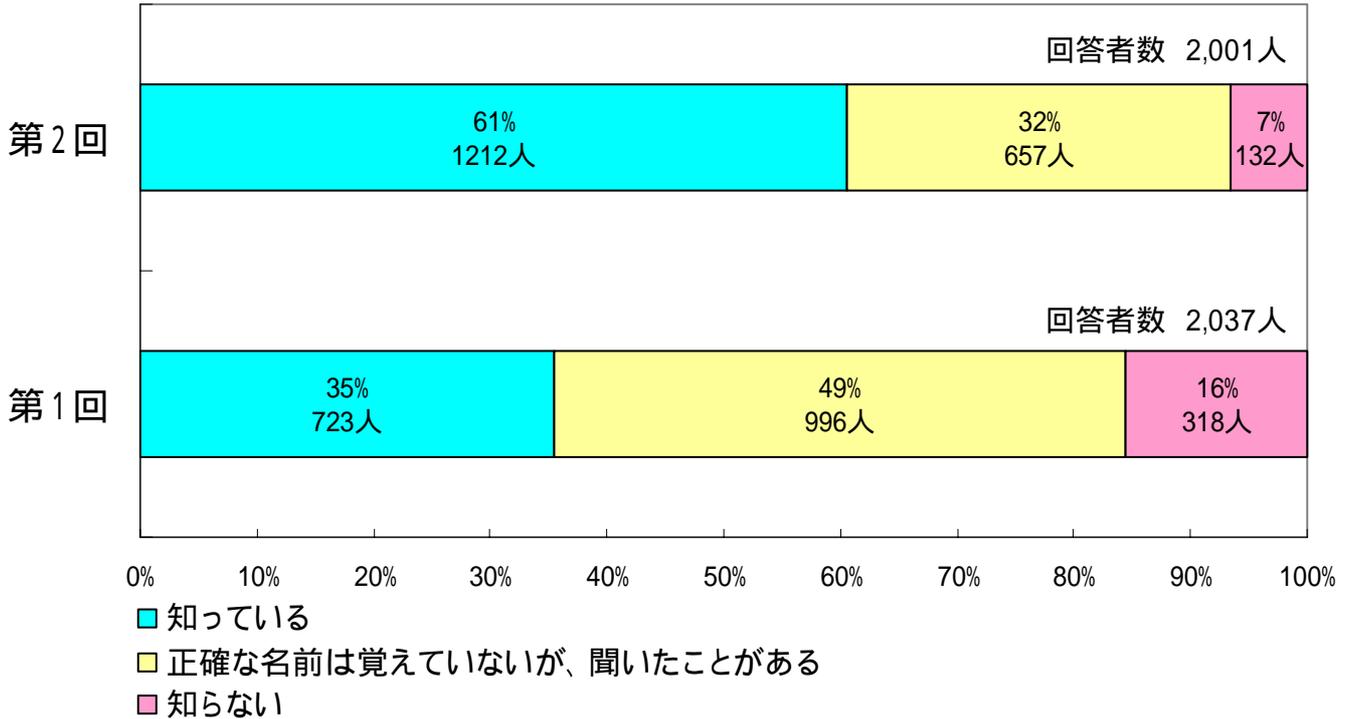
(2) 緊急地震速報の利用の心得

緊急地震速報の利用の心得に関する質問は、緊急地震速報の解説（参考 1 参照）を示した後、質問した。

- ・家庭における行動では、「頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、慌てて外へ飛び出さない」と適切な行動を回答した人が 59%、「何はさておき火を消す努力をする」人が 38%。なお、火を消す努力のうち「火元の近くでは火を消す」という人が全体の 17% で、適切な行動と合わせると 76%。
- ・集客施設における行動では 87% の人が適切な行動内容を回答。
- ・自動車運転中の行動では 83% が適切な行動を選択。さらに「すぐにスピードを落として停車する」と回答した人のうち「急ブレーキを踏む」と回答した人はほとんどなく、ほとんどの人は安全な行動を選択。

気象庁は、今後も関係機関と協力し、緊急地震速報の 10 月 1 日からの提供開始や「火を消すよりもまず身を守る」等の対応行動を中心に、より一層の周知・広報に努めます。

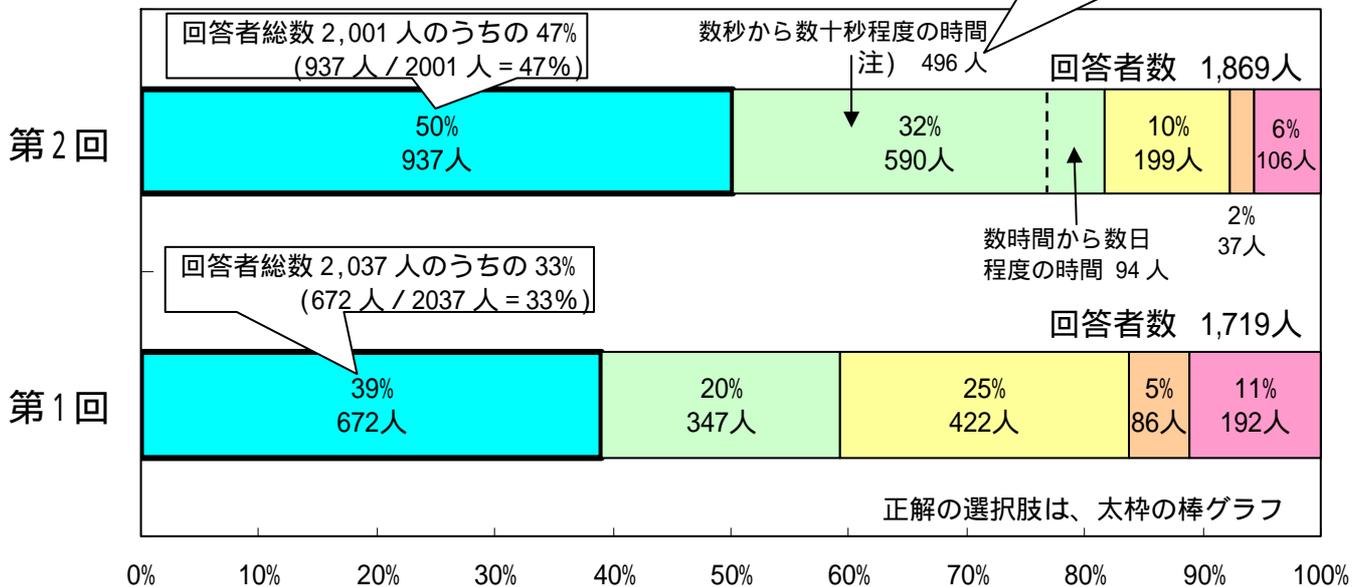
Q1.気象庁の「緊急地震速報」という情報を知っていますか。



Q2～Q4（Q4-2）までは、Q1で「知っている」及び「正確な名前は覚えていないが聞いたことがある」との回答者にのみ調査。

Q2.それはどのような内容の情報ですか。

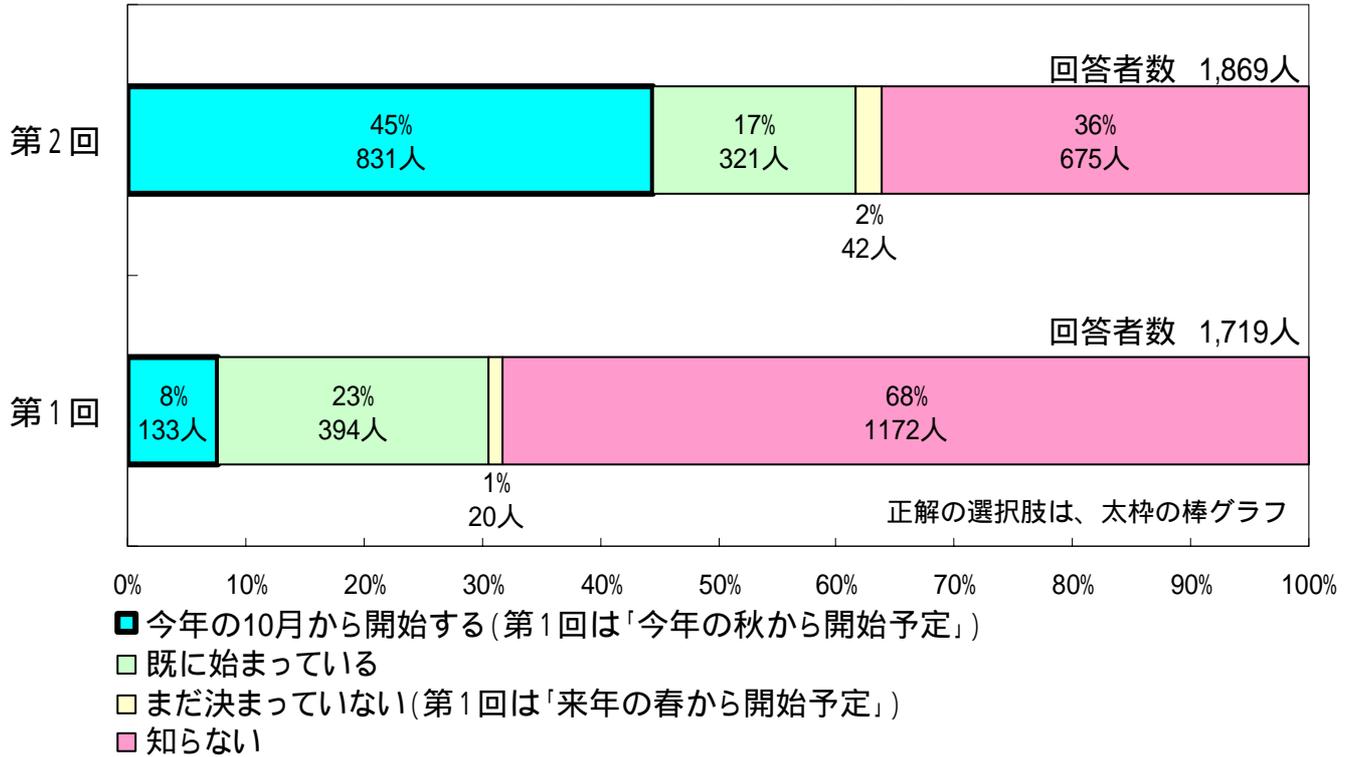
この回答者を正解に加えると77%、回答者総数2,001人のうちの72%



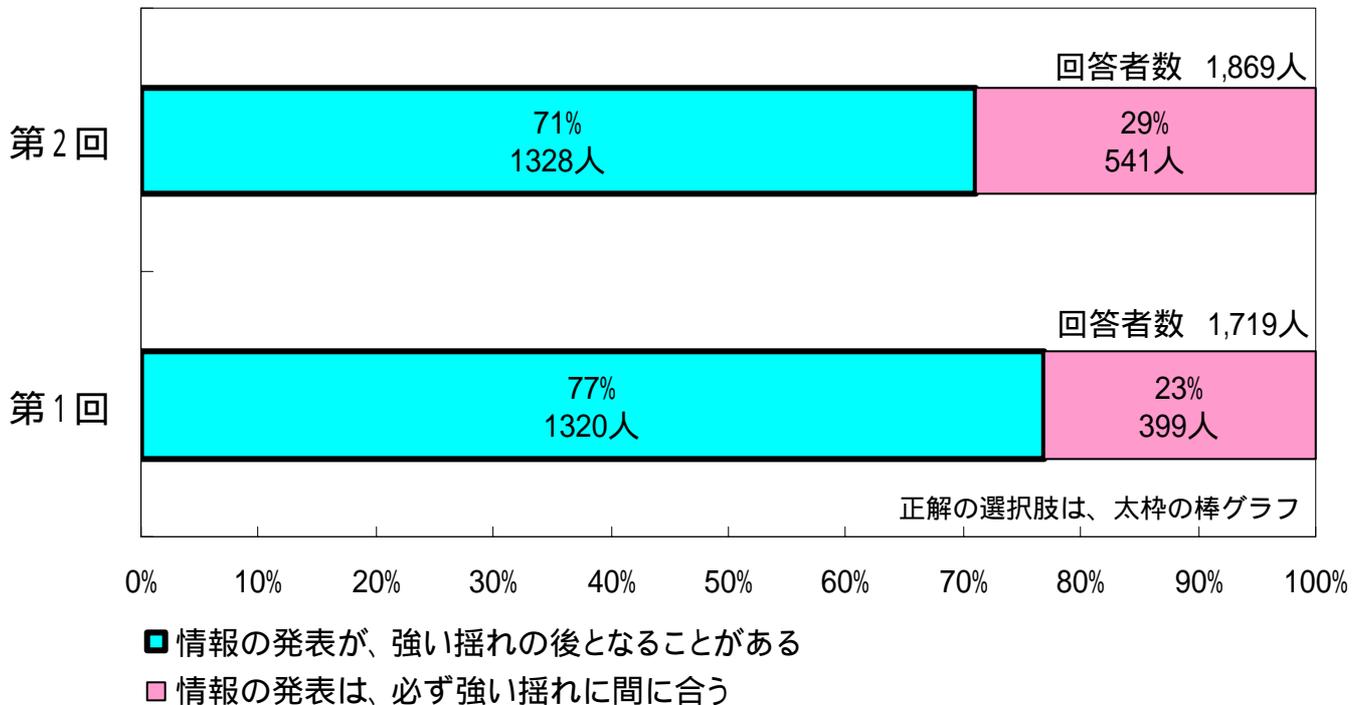
- 地震の初期微動を検知し、大きな揺れが来ることを直前に知らせる情報
- 地震が起きる前に、地震の発生を予知して知らせる情報
- 実際に観測した各地の震度を速やかに知らせる情報
- 各地の地震による被害の状況を速やかに知らせる情報
- わからない

注) 「地震が起きる前に、地震の発生を予知して知らせる情報」を選択された方(590人)のみに、地震が起きる前とはどのぐらいの時間を聞いたところ、約8割(496人)の方が「数秒から数十秒程度の時間」を選択し、情報の意味について正しく理解。

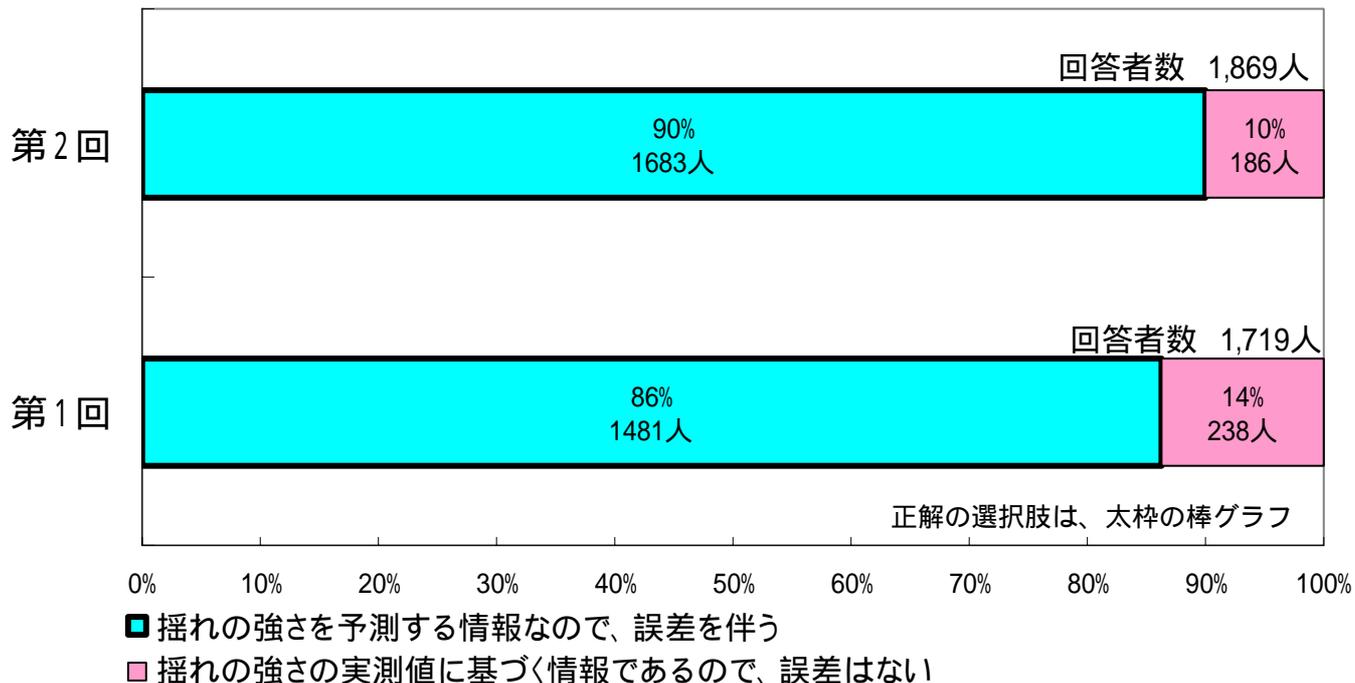
Q3.「緊急地震速報」のテレビ・ラジオなどを通じた提供が始まる時期を知っていますか。



Q4-1.「緊急地震速報」の原因に起因する技術的特性について正しい方はどちらですか。

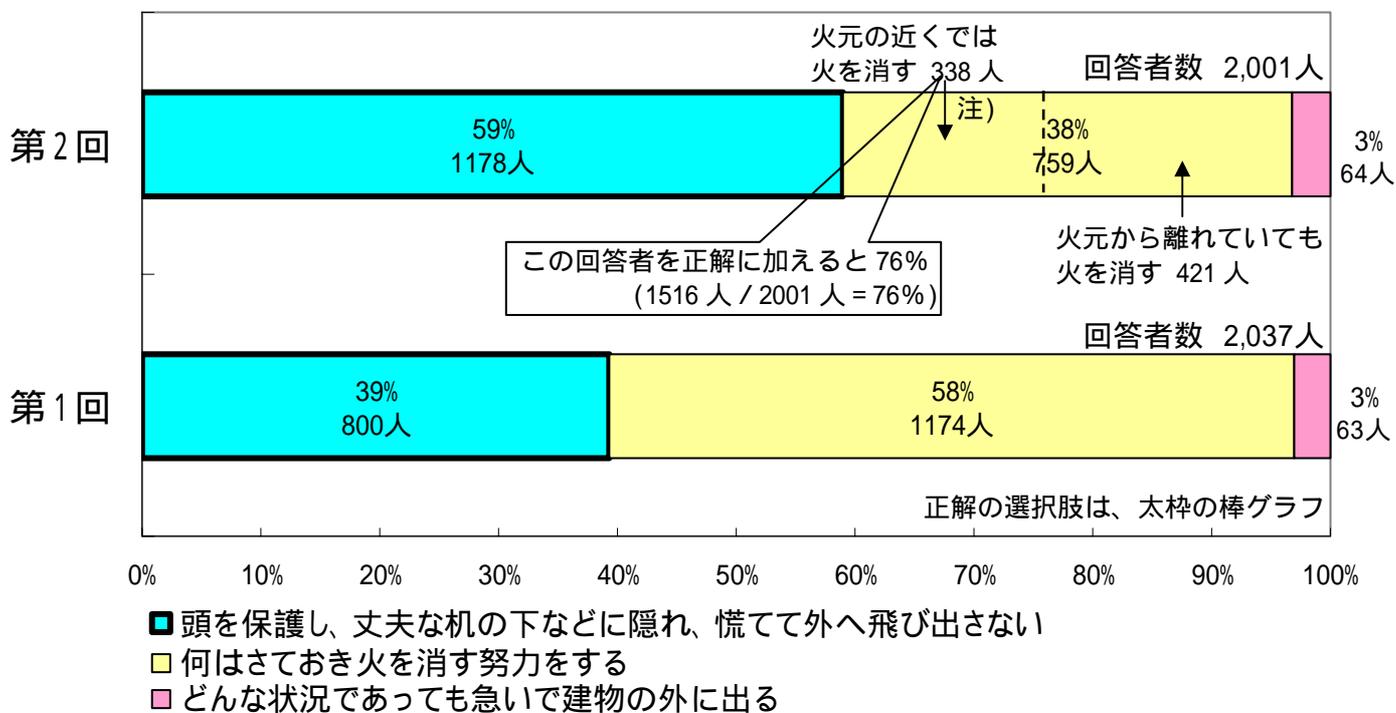


Q4-2.「緊急地震速報」の原因に起因する技術的特性について正しい方はどちらですか。



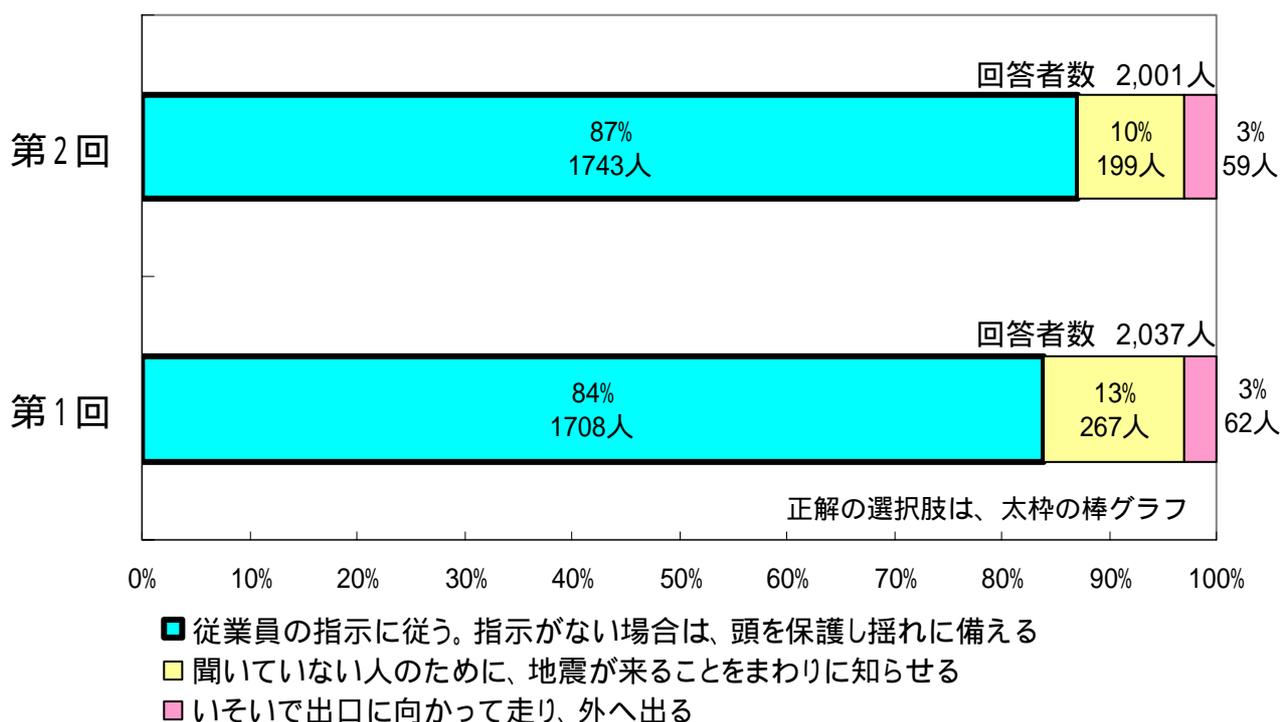
Q5-1.の前に、緊急地震速報についての解説(参考1)により、緊急地震速報を説明しています。

Q5-1.家庭で「緊急地震速報」を受け取った際に、どのように行動するのが一番良いと思いますか。

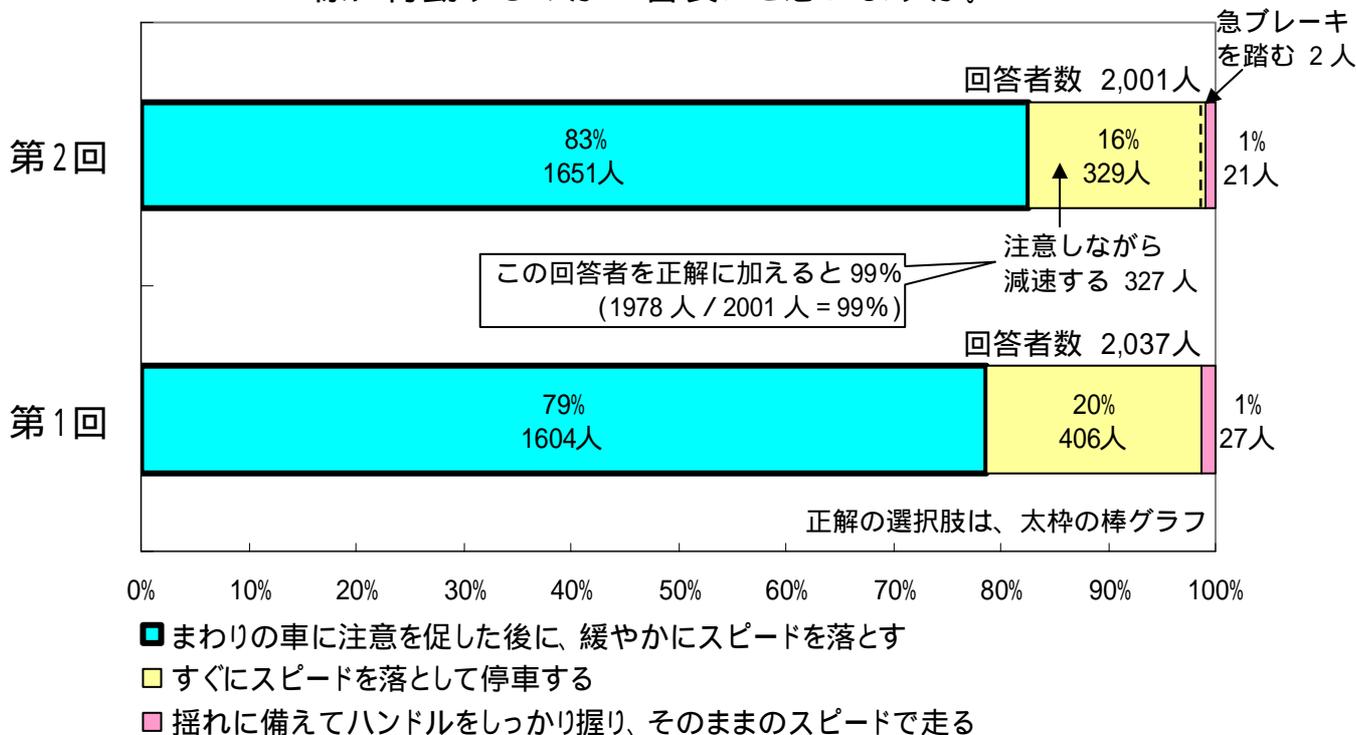


注)「何はさておき火を消す努力をする」を選択された方(759人)のみに、火元から離れていても火を消すかどうか聞いたところ、半数近くの方(338人)が、「火元の近くでは火を消す」を選択し、情報を受け取った場合の行動を正しく理解。

Q5-2.人がおおぜいいる施設で「緊急地震速報」を受け取った際に、どの様に行動するのが一番良いと思いますか。



Q5-3.自動車運転中に「緊急地震速報」を受け取った際に、どの様に行動するのが一番良いと思いますか。



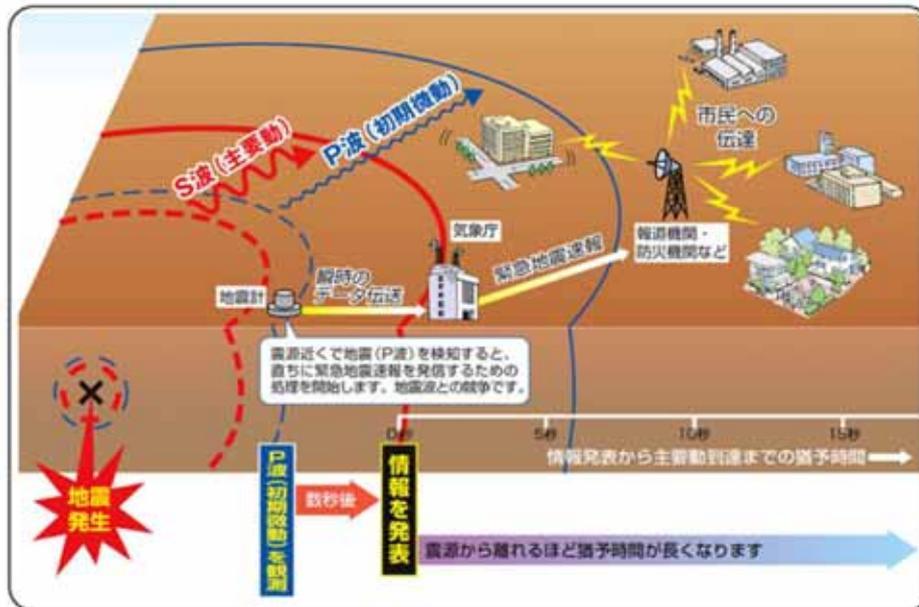
注) 「すぐにスピードを落として停車する」を選択された方(329人)のみに、急ブレーキを踏むかどうか聞いたところ、ほとんどの方(327人)が、「まわりの車に注意しながら減速する」を選択し、情報を受け取った場合の行動を正しく理解。

【参考1】 Q5の前に示した緊急地震速報の解説

緊急地震速報の解説

地震がおそろしい理由のひとつは、突然おそってくることです。自分のいる場所が強く揺れ始める前に、「もうじき揺れます」というお知らせがあれば、事前に身構えることで、被害を減らすことができます。これを可能にするのが、気象庁が中心となり一般向け提供開始に向けて取り組んでいる「緊急地震速報」という新しい地震情報です。

「緊急地震速報」は、震源に近い観測点で地震(P波、初期微動)を検知し、直ちに震源や地震の規模(マグニチュード)、各地の震度などを推定し、強い揺れ(S波、主要動)が迫っていることをお知らせする情報です。



上の図を見てください。地震の揺れは秒速数キロの速さで地面を伝わっていきます。震源(図の×印)の近くで地震の揺れ(地震波)を観測して瞬時に解析すれば、より遠くの地域に揺れの到来をお知らせすることができます。加えて地震波は、早く伝わるけれど弱い揺れのP波(初期微動)とそれより遅いけれど強い揺れのS波(主要動)があるので、先にやってくるP波(初期微動)を震源近くで観測して、後でやってくるS波(主要動)の到来をより遠くの地域へお知らせすれば、数秒から数十秒の猶予時間をもって地震の到来をお知らせできるのです。

気象庁は、本年10月1日から「緊急地震速報」の一般向け提供開始を計画しています。

次のページへ

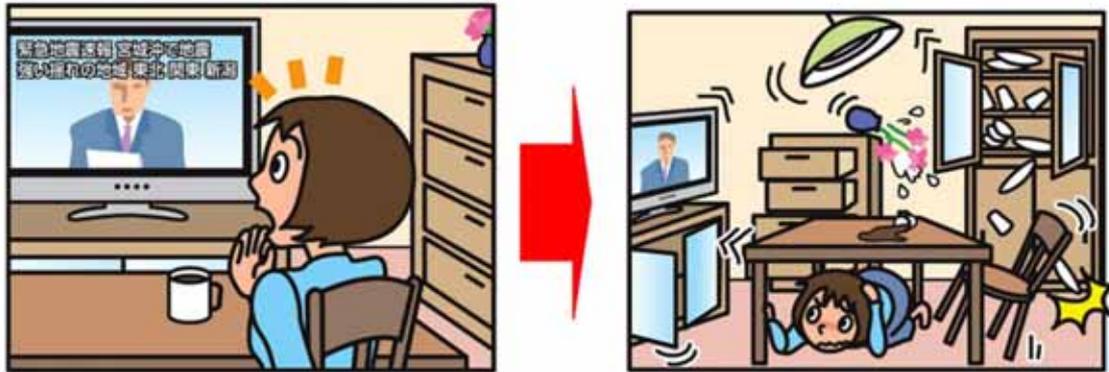
【参考2】 アンケートの最後に掲示した緊急地震速報利用の心得の解説

緊急地震速報利用の心得の解説

「緊急地震速報」は強い揺れがくることをお知らせする情報ですが、「緊急地震速報」をお知らせしてから強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。内陸の浅い地震などの震源の近くでは、「緊急地震速報」でお知らせするより先に強い揺れが来てしまうこともあります。

それでは、「緊急地震速報」を見聞きした時には、どうすれば良いでしょうか。『周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する。』ことが全ての基本になりますが、自分がどこにいるのかにより、とるべきことが若干異なります。

家庭においては、頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、身の安全を守ることが最も重要です。強い揺れが来るまでの時間は非常に短いので、急いで外に飛び出すことはかえって危険です。料理中でたまたまコンロの前に立っていたら、直ぐに火を消せませんが、離れたところにいる場合、無理にコンロへ走っていくと転んでケガをするかもしれません。また、最近ではガスの自動消火装置がほとんどのご家庭で普及していますので、何はさておき、自分の身を守ることを優先して下さい。



人がおおぜいいる施設（デパートなどの集客施設）でも、まずはあわてずに、従業員の指示に従いましょう。従業員から指示がない場合は、身の安全を守るために、頭を保護し、揺れに備えて身構えるなど安全な姿勢をとりましょう。あわてて非常口や出口に殺到することは大変危険です。また、大声で「地震が来るぞ!」と叫ぶことも、混乱を助長することとなるのでやめて下さい。



「緊急地震速報」は、テレビ・ラジオ等を通じてお伝えする予定です。自動車運転中に「緊急地震速報」を聞いた場合に、あわてて急ブレーキを踏み停車すると、「緊急地震速報」を後続の車が聞いているとは限りませんので、後続の車が追突するおそれがあります。そのため、あわてて急ブレーキはかけずに、ハザードランプを点灯するなどして、まわりの車に注意をうながした後に、緩やかにスピードを落とすことが重要です。大きな揺れを感じたら、できるだけ安全な方法により、道路状況を確認して左側に停止させてください。



詳しくは、気象庁のホームページの「緊急地震速報」の解説ページに掲載している「緊急地震速報」を見聞きした時をご覧下さい。